

3月句会自由吟

コメント 松橋帆波

薄型のテレビで首相薄く見え

薄型のテレビだから薄く見えると捉えてしまうと、本当は薄くないということになる。この場合、対象が総理大臣であることから、対比や穿ちとしては弱いのでは。

恋という僕の大事な寄生虫

下五は斬新だが、受け止められ方によっては難しい作品になる。だからといって主人公が寄生虫ではうまくない。恋と主人公が互いに補完しあう関係と読むか、恋に悩む主人公と読むか。意見を聞いてみたい。

アンタとは絶対見ないサスペンス

「絶対」は強すぎる気がするが、上五の仮名表記で補えているかどうか検証したい。

風を呼びたくて右脳へマッチ擦る

「風」「右脳」はよく見かける表現「マッチ擦る」は珍しいが、その分読者に委ねている気もする。

粉雪にそそのかされて逢いに行く

作品の登場人物と作者との関係性、川柳の匿名性の点から、後半を「そそのかされて逢いに行く」と比較してみたい。

義理チョコと念を押されてから不眠

下五「不眠」から、意中の人からのチョコだと感じ取れるところなど、句意を広げる表現という点から捉えてみたい。

幸せを掴む大きな手が欲しい

「大きな手」で思いが出ているが、内容がさみしい。誰でもそう思う事柄であったりもする。

霊柩車と擦れ違う古自転車

文節で言うと六・五・六という形だが、読み下すリズムが欲しいところ。「擦れ違う古自転車と霊柩車」などと比較検討したい。

鳴かぬならペットにしようホトトギス

本歌取。中七を付ける遊びは昔から多い。もっと思い切っても良かったのでは。確かに「鳴かない」から「ペット」とは現代性もあるのだが。但し、作句の訓練としては手柄だといえる。

飼い猫の求愛どこか人めいて

上五のなぜ「飼い猫」なのかという。限定を検討したい。「めいて」「めく」などの止め方についても意見を聞きたい。

戦争をしない軍艦民を轢く

下五の表記がキモ。同時にそれがなければ時事の報告になっている点を検証してみたい。

ばらばらに食べる家族の菜を洗う

上五・中七と下五のかみ合いが面白い。現代を感じると同時に世代によっては下五に違和感を覚える人もいるだろう。

少子化へ出来ちゃった婚拍手され

「・・・出来ちゃった婚誉められる」など同想多数。「へ」「に」「の」の助詞の効果について比較と検証をしたい。

防人の平和ボケ知る日本海

日本海で想起される「平和ボケ」ははたして防人（自衛隊？保安庁？）だけなのか。この点で作者の意図が十分に伝わっているかどうか検討したい。

団塊の青春力が試される

上五「団塊の」から連想される状況を比較検証したい。「青春力」という言葉に対する意見も。

ごくごく乳呑みながら問う瞳

このオノマトペは成功。「呑む」という表記について意見を聞きたい。

馬鹿にした予報へ傘を買わされる

過去に同想多数の作品であるが、「買わされる」という表現が手柄。

霜柱朝のギクシャク踏んで出る

ギクシャクという副詞がオノマトペのような効果を生んでいる点を検証したい。

騒音撒布受難天井

四・三・四・三の七・七形式。リズムはいいが「天井」で句が難しくなっている。例えば「鉄橋」「球場」「電脳」などと比較してみたい。

生命線ここで切れててまだ達者

中七は軽妙な表現であるが、「eee、aa」と続く母音のリズムについて検証したい。

すねたよな腰を残して別れ際

「すねたよな腰」つまり「拗ねていない」わけで、この点の捉えられ方を検証したい。

一呼吸置いて言葉の棘を抜く

「言葉の棘を抜く」という表現は手柄。「置いて」と「抜いて」を比較検証したい。

悲しいほどに別れたくないでも時間

七・七・五という形だが、読み下す場合は前半が心の中の眩きであるため、十四・五という形にすると違和感が少ない。音字形態と披講について考えてみたい。

モザイクをかけて少年花落す

下五「落とす花」では広がらない。この作品の場合、体言止めではない不安定さが世界を創っている。下五の形について意見を聞きたい。

したたかなしわぶきひとつ古時計

「したたか」と捉えたところが手柄。「したたかな」と上に置く場合と「したたかさ」と下に置く場合の比較を試みたい。

猫ネタを封じられたら詠めません

下五で「何かを表現したい」作者がいることは分かるが、上五からそれを想像できるかどうか。